

「パレスチナ開発のための東アジア協力促進会合(CEAPAD)」
第一回本会合における副大臣の冒頭スピーチ

(冒頭)

●「パレスチナ開発のための東アジア協力促進会合」^{シーバッド}、CEAPADの第一回会合へのご出席に心より御礼申し上げます。新政権発足以降、東京で初めて主催する国際会議において、パレスチナの国づくりについて皆様と議論できることを大変光栄に思います。

(情勢認識)

●中東・北アフリカ地域の安定は、アジアを含む国際社会の安定に不可欠です。同地域では、所謂「アラブの春」の中で民衆による変革が広がりましたが、一部の国では不安定な情勢が続いています。先般アルジェリアで発生したテロ事件では、日本人やその他の国の方々を含む多くの無辜の人々が犠牲となりました。この場を借りて、改めて犠牲者のご冥福をお祈りすると共に、ご遺族に対し哀悼の意を表します。事件発生直後、私は、安倍総理の特使として同国を訪問しましたが、国際社会と連携してテロとの闘いに取り組む決意を新たにするとともに、より根源的には同地域の安定化に取り組む必要性を痛感しました。

●中東和平の実現は、地域全体が不安定化する中で更なる重要性を帯びるに至っております。同問題の解決なくして地域のみならず国際社会全体の安定は確保出来ないと言っても過言でないでしょう。しかしながら、和平交渉は長らく停滞し、パレスチナは経済・財政状況の悪化や西岸・ガザの分断等困難な状況に直面しています。

(日本の取組・CEAPADの意義)

●これまで日本は一貫して、パレスチナとイスラエルの双方に、直接交渉の早期再開と「二国家解決」を通じた和平実現を訴えてきました。そして、そのための環境作りとして、パレスチナの国づくりを様々な面から支援し、93年以降、その規模は米・EUに次ぎ第3位となる約13億ドルに達します。

●さらに日本は、パレスチナ支援に関する東アジア諸国との協力を追求してきました。パレスチナの国造りやその基礎となる持続可能な経済の実現にあたっては、経済発展の経験や更なる成長の潜在性を持つ東アジア諸国との協力が極めて有意義です。また、これらと我が国の国際援助に関する知見を融合させることで、より効果的な支援が期待できます。すでに、本会合に参加頂いているインドネシアやマレーシアとは、農業、金融、中小企業支援等の分野でパレスチナへの三角協力を成功させてきました。

●CEAPADは、まさにこうした発想の下、国際機関の知恵を借りながら、東アジア諸国が互いの強みを生かした協力のメカニズムを構築し、主体的にパレスチナ支援に取り組むことを目指しています。また、政府のみならず、東アジアとパレスチナの民間セクター間のビジネス関係の構築も重要と考えています。

●日本や東アジア諸国はそのリソースを使ってパレスチナの国造りを支援する用意があります。これを踏まえ、イスラエルとパレスチナの双方においては、平和と安定のために一層の努力を行い、直接交渉に向けて果敢な第一歩を踏み出すことを強く望みます。

(結語)

●本会合を契機として、パレスチナ支援に関する東アジア諸国の協力関係が深化・拡大することを強く期待しています。ご静聴、誠にありがとうございました。

(了)